

取組実績の概要（2 ページ以内）**【本事業の取り組み実績と成果、及び補助期間終了後の展開】**

本事業は、ファッション教育分野における「長期学外学修プログラム」である。ファッション産業においてグローバル化に対応できる人材育成は、喫緊の課題でもある。学校法人文化学園は、中期計画において「グローバリゼーション」「クリエイション」「イノベーション」の3つの柱を教育・研究活動の基本方針として掲げており、本学の長期学外学修プログラム（AP）事業（以下「本事業」という。）は、本学における「グローバリゼーション」推進の一端を担う事業として位置付けられている。本事業の長期学修を可能にする為、後期定期試験終了後から春期休暇中の期間に、1・2年次生を対象に「梅春学期」を新設した。また、3年次のグローバルファッションマネジメントコース対象の8週間～12週間の海外・国内インターンシップ実習も組入れて実施した。本事業の目的は、学外学修プログラムを通して、学生が主体性や行動力を身に付け、グローバルコミュニケーション力、異文化交流や伝統文化理解力、グローバルキャリア志向力を高めて、「グローバル創造力」を養成することを目指すものである。

取組期間は、平成27年度から補助期間終了の令和元年度までの5年間である。平成27年度は、海外提携校との折衝、受入企業開拓を行い、平成28年度は、試験的期間として海外1か所、国内2地域2企業で実施した。平成29年度は、「本格的実施年度」と位置付け、海外5科目、国内10科目開講し、また、海外インターンシッププログラムではファッションマーケティング分野の学生向け他、ファッションデザイン分野の学生向けのプログラムを新たに開講し、質量共に充実を図り、83名の学生が参加した。平成30年度は、国内9科目、海外4科目で実施し、66名の学生が参加した。科目の内容は、終了後に振り返り、成果評価を行い、内容変更や新科目を導入して参加学生増加の施策を試みてきた。最終年度の令和元年度は、国内9科目、海外5科目で実施して77名が参加した。参加学生数割合は、目標を下回っているが、梅春科目は長期間にわたり海外・国内の企業や教育機関で実習を伴う科目のため、担当教員が事前に面接を行い、適性や意欲、語学能力等を確認して参加学生を絞り込んでいることも要因の一つである。結果として、目的意識の高い、意欲的な学生の参加が多かったことも事実である。科目の実施に当たり、担当教員と学生が事前教育で、ルーブリック評価基準、目標設定や達成に向けたプロセスチェックを確認し、事後教育で振り返りと報告書の作成、発表を行っている。報告書では、多くの学生が学内の授業では学べない貴重な体験を語っている。国内モノづくりの現場でプロフェッショナルの仕事を学び、あるいは海外企業体験、教育機関での交流等の体験を通じて、自身の足りない部分や高学年でやるべき目標が意識できた、グローバル化対応の必要性など、さまざまな「気づき」を得られたことは本事業の大きな成果である。令和元年5月に開催した本事業の公開成果報告会で、海外・国内科目参加学生が成果発表を行った。学生たちが、力強く学修成果を発表していたことは印象的であった。さらに、参加された学内・学外一般の方々へ本事業を認識頂き、成果を評価いただく機会にもなった。

以上の、本事業を遂行するための学内体制は次の通りである。学長が委員長で審議・議決機関である『AP推進協議会』、担当教員と大学事務局員で構成される『AP担当者連絡会』で科目の評価、運用上の討議を行う。さらに、担当教員で構成される『AP対応ワーキンググループ』で、科目内容検討、ルーブリック評価や事前・事後教育等を協議する。『AP対応ワーキンググループ』は全学的な組織である『USR推進室』所属の機関であり、USR推進室に本事業の予算措置がされている。補助期間終了後の体制については、『AP推進協議会』の継続が決定され、同時に『AP担当者連絡会』、『AP対応ワーキンググループ』の継続も決定し、『USR推進室』に事業予算措置することも決定され、長期学外学修プログラムの継続は担保された。

【必須指標の達成度】

	平成 27 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
長期学外学修プログラムに参加する学生数割合	0.5%	5.37%	2.9%
長期学外学修プログラムを経た学生の成績評価	未実施	130	84.1
退学率	4.9%	2.50%	4.86%
学生の授業外学修時間	-	調査を実施	授業外学修実施率 予習:32.5% 復習:48.4% 課題:80.4%
進路決定の割合	83.7%	90.0%	74.7%
学生が企画する活動数	1	5	8

・長期学外学修プログラムに参加する学生数割合

令和元年度の「梅春科目」は、実施科目の見直し・追加を行い、国内 10 科目(定員 51 名)・海外 5 地域 6 科目(定員 56 名)の合計 16 科目(定員最大 107 名)で開講した。また、3 年次学外学修プログラムとして「グローバルファッションマネジメント実習」と「ニューヨークパターン研修」を開講し、対象学生の増加を図った。最低催行人数に満たなかった科目があったため、国内 9 科目と海外 5 科目、及び「グローバルファッションマネジメント実習」を実施しその結果、「梅春科目」及び 3 年次学外学修プログラムに国内海外合計で 77 名が参加した。

・長期学外学修プログラムを経た学生の成績評価

効果測定は平成 29 年度履修者より、本プログラム受講前後に TOEIC 試験の結果によって行っている。本プログラムのうち「梅春科目」は実施時期が 2~3 月であるため試験の実施は 12 月とし、令和元年度の本プログラム開始前の履修者の成績及び平成 30 年度の履修者の成績をはかるための試験を令和元年 12 月に実施した。また、平成 30 年度の履修学生には令和元年 7 月に実施された試験を受験した学生もいたため、これらの試験を基に検討したところ、「梅春科目」(海外)及び「グローバルファッションマネジメント実習」を履修した学生のプログラム受講後の TOEIC スコアは平均で 84.1 ポイントの上昇となった。

・退学率

退学理由としては、進路変更が最多であり、次いで経済的困窮となっている。

進路変更に対しては、AO 入試のプレゼンテーション・面談内容について、受験生が自身の適性を確認できるように入試内容の多様化等を行い、入学時点でのミスマッチを最小化する等の方策に取り組んでいる。

経済的困窮に対しては、既に開始している「文化学園大学・文化学園大学短期大学部奨学金」・「GPA による学業成績優秀者学修奨励金」に加え、平成 28 年度後期より「文化学園大学・文化学園大学短期大学部紫友会奨学金」の給付を開始したこと等、学生の学業継続に資する取組を継続的にしている。

・学生の授業外学修時間

本学では、実習と課題(学生に課す宿題)が多く、授業外学修時間はある程度確保されていると考えるため、あえて詳細な調査は実施していないが、現時点での最新の調査である「2019 年度文化学園大学学生生活調査」における学修時間は下記のとおりである。なお、この調査は 3 年に一回実施している。

予習: 3 時間以上(0.9%), 2 時間~3 時間未満(2.1%), 1 時間~2 時間未満(8.1%), 1 時間未満(21.4%)
 復習: 3 時間以上(1.3%), 2 時間~3 時間未満(3.9%), 1 時間~2 時間未満(12.6%), 1 時間未満(30.6%)
 課題: 3 時間以上(17.0%), 2 時間~3 時間未満(17.0%), 1 時間~2 時間未満(26.9%), 1 時間未満(19.5%)

・進路決定の割合

留学資金確保や将来的に専門職等を目指す者はアルバイトからの雇用で職に就く状況も見られるため、進路決定者数の中に一時的な仕事に就いた者も含めているが、今回の就職者数の割合については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があると思われる。現在、1 年次からキャリア形成教育科目を開講しており、これらの科目群を通じ自身の将来設計について見つめ直す機会の提供と指導を行っている。

・学生が企画する活動数

令和元年度は、本学独自の制度である「学生チャレンジプロジェクト助成金」を活用した、取り組みが増加した。採用された活動としては、オリンピック・パラリンピック気運醸成イベントである「MERRY SMILE for SHIBUYA 2020」でのファッションショー、グループ展の開催や新人ジュエリー作家応援企画展への参加、長野県須坂市での古民家再生プロジェクトなど、学生の活動は多岐にわたっている。